

事後指導の限界を超える

- 事後指導の問題点
 - 知識の提供はできる
 - その評価はできるか
 - 動機付けは難しい
 - 実施に結びつくアドバイスはどうしたら出来るか
 - 長期を見越したアドバイスが難しい
 - その場限りの指導アドバイス
 - ・ 記録を残す、次回の検診に結びつける
 - その人にあったプログラムを紹介する

重点支援プログラムの意義と限界

- 重点支援の特長は？

- 効果が見込める

- 自信を持って薦められる

- 重点支援の弱点は？

- 人的資源が必要

- 多人数を実施できない

- 費用が高い

- 採算性を確保するのが大変



単独モデルの問題点

- 効果を出そうとすると手間がかかる
- 手間を省くと効果が出ない

→ 単独のモデルでは浸透力がない

→ 単独のモデルでは「数×効果」がない
複数のモデルを組み合わせた
アプローチが必要

松竹梅モデル

- 松
手間はかかるが効果を確実に期待できる
保健指導のフラッグシップモデル
- 梅
誰にも提供できるモデル
情報提供を中心
他のシステムへの導入元
- 竹
持続的なサポートを手間をかけずに行う
通信制、面接＋通信制などの組み合わせ

竹コースの例

1回面接＋通信支援

マイレージ制による支援モデル

キャンペーン型支援

減量キャンペーン

運動キャンペーン

禁煙キャンペーン

→自力でできる人への機会の提供